【授業科目】臨床化学検査学実習Ⅰ　Clinical training of Laboratory Clinical Chemistry Ⅰ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
森本 誠	２年次 後期	必修	1	30	実習	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／生物化学検査は診断や治療を目的として病院の臨床検査として高頻度に利用され、さらに予防医学に対しても重要な検査項目が多い。まず、臨床化学検査学Ⅰの知識を基に血清成分の変化が病態に関与する関係を他の検査項目との関連性を含めて理解させる。生理的意義、臨床的意義、測定法の理論を中心にさらに理解を深め、疾患とのかかわりを重点的に学ぶ。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／提出されたレポート、課題について全体の総評コメントを掲示にて公開する
実務経験に関する 授業内容	臨床化学検査の経験を持つ教員が、臨床検査技師として必要な臨床化学検査の方法について教科書、経験を交えて講義を行う。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	①各検査項目の測定法、原理を説明できる。 ②検体の保存方法、各検査項目の影響物質について説明できる。 ③ホルモン、機能検査の内容を理解し、説明できる。 ④検査項目から疾患を読み取ることができる。
時間外学習に必要 な学修内容および 学習上の助言	臨床化学検査学Ⅰでの内容をよく理解し、発展させる。特に疾患を読み取る力を養ってほしい。他の専門科目で学修する検査値との関連も説明できるよう努力してほしい。 第１回～15回事前学修：指定の教科書を事前に読んでおく（各３０分） 第１回～15回　事後学修：各回での学びを復習することで確認し、解らなかったことは調べ教員に質問する（各３０分） ※その他に、講義で学んだことを振り返るための課題を課すことがある（各６０分）。 上記例は、１単位１５回科目の場合で、予習+復習に必用な時間は、1時間／１回となる。
	※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第 1・2 回　実習ガイダンス、マイクロピペット検定 第 3・4 回　血中グルコースの測定（GOD-POD法、電極法）、検査法と臨床的意義、症例検討 第 5・6 回　血中酵素活性（AST,ALT）の測定（POP-TOOS法）、検査法と臨床的意義、症例検討 第 7・8 回　血中脂質（TG、T-Cho、HDL-Cho）の測定、(GK-PK-LD法、COD-POD法)、検査法と臨床的意義、症例検討 第 9・10 回　血中クレアチニン(jaffe法)、血中ビリルビン測定、検査法と臨床的意義、症例検討 第 11・12 回 血液ガス測定、臨床検査自動分析装置（ドライケミストリー）、検査法と臨床的意義 第 13・14 回 臨床検査自動分析装置（ウエット）検査法と臨床的意義 第 15 回　総合演習
	全て 森本
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 講義ごとのレポート　50%、学期末試験 50%
教科書	メディカルサイエンス『臨床化学検査学』近代出版
参考書等	なし
学生への メッセージ	各講義に使う資料をよく勉強し、検査データの意味を正確に把握することを目的として勉強して欲しい。